



バーナ うんにや、だれが何てつたつ

て、けふは死なねい。

公 まア、さういはないで。

バーナ いやだく！ いふことがあ

るなら、おらの部屋へ来さつ

せ。どうしたつて、けふは此

處を離れねいんだ。

バーナーティン 室内に入

る。

公

生かすにも、死なすにも不適當

な奴だ。人情知らず！…あ

とを追ッかけて行つて、首切臺

へ伴れて行きなさい。

アブホオソンとボンベイと室内へ入る。
典獄又出る。

典

奴は如何な様子でした？

公

まだ覺悟をしてゐないから、殺すには不適當です。あのまゝで此世を去

典

らせるのは憚り多い。

典

ねえ、もし、今日、此獄内で、ひどい熱病で死んだラゴザインといふ名うて

の海賊があるんですが、そいつが丁度あのクロードイオの年配で、頭髪や髭

までも同じ色なんです。どうでせう、あの悪黨は（と奥へ思入して）自分で死

ぬ氣になるまで、ま、許しておいて、クロードイオにや却つて善く似てゐる

ラゴザインの面をお名代に見せて安心させちやア？

公

おゝ！ そりや全く思ひがけない天のお助けだ！ すぐにそれを實行な

典 さい、もうお名代の豫定した時刻が迫つてゐるから。それを實行して、命令通り、首を送らせなさい。其間に、わたしはあの亂暴者を説得して、死ぬ覺悟をさせませう。

典 すぐさま然うさせませう。が、バーナーディンも、午後には殺さなくちやなりません。それから、クロードイオをどうしておきませう？ あれが生きてることが知れると、わたしの身があぶないが。

公 かうなさい。バーナーディンも、クロードイオも、人の知らない監房へ容れておきなさい。太陽が反對側の人間共へ二度「今日は！」をしてゐるうちには、あなたの安全が明證されることになる。

典 萬事あなたにお任せします。早くやつて、首をお名代へお送りなさい。

典 獄に入る。

そこで、アンジエロへの手紙を書いて……あの典獄に持つて行かせる……其文意によつて、おれが程なく歸國するといふことが分る。且つ特に、是非公然と入府する積りだから、と嚴命しておく。府から一里半のあの靈泉まで出迎へろ、と彼れに要求しておく。さうして、あそこから恒例通りに儀容を整へ、アンジエロを伴れて、靜かに入府することにしよう。

典 獄 ラゴザインの首を籠に入れて持つて出る。

典 首はこゝに在ります。わたしが持つて行きます。

公 至極けつこう。すぐ戻つておいでなさい、あなたにだけ知らせておきたい事が、いろいろありますから。

典 急いで往つて來ます。

典 獄 入る。

此時、奥にて、イサベラの聲にて

イサベ もしく、ごきげんよう！

公 イサベラの聲だ。兄の赦免が叶つたか、どうかを聞かうとして来たのだ。先づ吉左右は知らせないでおかう、豫期してゐない時分に、絶望を轉じて、限りない喜びを感じさせるために。

イサベラ 又出る。

イサベ おや、御免なさい！

公 おゝ、お早う、ごきげんよう！

イサベ あなたにも御機嫌よう！ 御名代から兄を御赦免のお使ひが参りましたか？

公 兄御を此世から放免するといふ命が下つた。それで、もう首を斫つて、御名代の許へ送りました。

イサベ いゝえ、そんな筈はありません。

公 全くの事です。此上はじつと耐へるのが賢女といふものです。

イサベ (駭き、怒つて) おゝ！ わたしやこれから駈けて行つて、あいつの目を抉り抜いてくれる！

公 どうして！ てんで其目通りへ出ることも出来まい。

イサベ (煩悶して) 不幸な兄さん！ なさけない此イサベラ！ むごい、意地のわるい、つれない世間！ 憎い、あのお名代！

イサベラ 激昂してあちこちを歩き廻つて悶へる。

公 さう咀つて見たつて、些もあの男を害することも出来んければ、あなた自身を益することも出来ん。だから、忍耐をして、何事も天にお任せなさい。

此中イサベラ泣く、又公爵の傍へ戻つて来る。

ま、わたしの言ふことをお聴きなさい。これは只の一言も間違のない事

實なのだが、公爵が明日御歸國になる、……ま、泣くのをお止め、……それをわたしの同宗の司悔僧から知らせて来たのだ。もう既にエスカラスどのとアンジェロどのとへお知らせがあつて、兩卿は府門までお出迎へをして、そこでお預りの政權をお還し申すことになつてゐるさうな。出来るなら、心を鎮めて、わたしの指圖通りの途筋を辿つて見なさい。さうすれば、思ふさま、あの悪漢に復讐することも出来れば、公爵の恩恵を受けることも、又面目を立てることも出来る。

イサベ

(泣きながら) あなたのお指圖通りにします。

公

では、此手紙をば、わしの同宗門のピーターへ手渡して下さい。公爵の歸國をわしに知らせたのはあの仁なのだ。此書を證據にしてお言ひなさい、わしが今夜マリヤナの宅へ彼仁に来て貰ひたいと言つたと。マリヤナさんの事も、お前さんの事も、とつくりとピーターにお話しなさい、さうする

と、あの仁がお前さんがたを公爵の許へ伴れて行きます。そこで、アンジェロを、面と向つて、びしくやツつけるが、い。わし自身は、宗門の餘儀ない誓約があるので、一しよに行くわけにはいかん。ね、此手紙を持つて行きなさい。さ、さ、その心を磨り減らす水を目から乾かして、軽い氣になつて行きなさい。これがお前さんの爲にならないやうであつたら、わしの宗門は邪宗だと思ひなさい。……お、だれやら来た。

ルーシオ出る。

ルーシ

今晚は！ 和尚さん、典獄は？

公

獄内にやゐませんよ。

ルー

お、イサベラさん！ あなたがそんな赤い目をしてるのを見ると、わたしの心臓が眞蒼になツちまひますア。ねえ、忍耐しなくツちやいけません。わたしなんぞも、三度の食事を糠と水ばかりに爲ようかと思つてゐ

る。肚を充満くさせるのは危険だと思つてゐる。たらふく食ふと、つい、
やらかしたくなりますからね。……それはさうと、公爵さんは明日歸るツ
てね。イサベラさん、ほんのこつたが、わたしはあなたのお兄さんが大好
きでした。あの氣まぐれの、穴ッ入り好きのお爺さんさへ不在でなかつ
たら、お兄さんは殺されやしなかつたにねえ。

イサベラ 入る。

公 もしく、公爵さんは、あなたの其お言葉に對しては、かりにもお禮なんか
言はつしやりさうにありませんねえ。が、幸ひと、公爵さんはそんな方ち
やありませんよ。

ル 和尚さん、君はわたしが知つてる程にア公爵を知らないんだ。あの人は
君が思つてるよりア遙かにあの道の達人だよ。
公 さア、いづれ其言責をあなたはお負ひなさるでせうよ。……さよなら。

公爵 行きかける。

ル まゝ、お待ちなさい。一しよに行かうよ。公爵に就いちやア、まだ面白い
話があるよ。

公 もう既に澤山過ぎるほどお話をすつた、あれが事實でなければだが。
ル 曾てわたしがあの人の馴染の女を孕ませたことがあるんだ。

公 あなたがそんな事を
なすつたんですか？

ル あゝ、實際。けれど
もあくまでも知らを
切ツちまつた。あ
ぶなく腐れ枸杞を背
負ひ込むところだつ



た。

公 あなたと交際つてると、面白くはあるが、おしまひにや面目をつぶしさうだ。 さよなら。

ルー いゝえ、此小路の突當りまでは、是非、一しよに行くよ。 かういふ淫猥話は眞平だとお言ひなさるなら、ほんの少々にするよ。 これさ、和尚さん、わたしは毛毬のたぐひだよ、くつついたら離れないよ。

公爵先へ行くルーシオ其後を追つて入る。

第四場 アンジェロ邸の一室

アンジェロとエスカラスと(書簡を持ちて)出る。

エスカ 御書面の内容が、共都度、全く前便とは矛盾してをります。

アンジ 非常に異つてゐます、殆ど支離滅裂です。 公爵の行動は狂氣めいてゐま

す。 どうかお氣が狂つたのでなければよいが！ 府門までお出迎へをして、そこで政權をお還しするといふのは如何いふわけでせう？

エスカ わかりませぬね。

アンジ 御入府前一時間内に豫め布令を出して、若し何か直訴したいことがあるなら、街上で請願書を差出すやうに通じておけとあるのは、どういふわけでせう？

エスカ 其理由は御書面に見えてゐます。 訴訟事を一舉に形附けてしまつて、後日吾々に對し、かれこれ面倒のないやうにといふ御趣意だとあります。

アンジ では、どうか、命の通りに布令を出して下さい。 明日早くお宅へ伺ひませう。 お出迎ひすべき身分柄の者へは、すべて、通知して下さい。

エスカ 承知しました。 ごきげんよう。

アンジ ごきげんよう……

エスカラス 入る。

わるいことをした爲に心が惑亂して、何をするにも出来んやうになつてしまつた。身を汚された處女！ しかも然ういふ事を嚴禁するのを職務としてゐる最高法官の爲に！ 娘氣に、恥ぢて黙つてゐればこそだが、さうでなかつたら、ま、何と言ひ觸すだらう？ けれども、分別が口外しちやならんぞと嚇す、おれの職權には社會の重大な信用が伴つてゐるからだ。かりにもおれを誹毀するやうな口を叩けば、忽ち罪人となる虞れがあるからだ。あの青年は、實は殺すのぢやなかつたのだが、恥をかゝせて生かしておく、あゝいふ亂暴者は、危険な考を抱いて、後日復讐を企てまいものでもないからなア。だが、殺さないでおきたかつた！ あゝく！ 一度道を踏み外したりといふと、もう何事も眞直には行かない。爲ようと思ひながらも、爲ようとはしなくなる。

アンジエロに歎息しつゝ、入る。

第五場 郭外の原野

常服を着した公爵と兄弟僧のピーターと出る。

公爵 (書類を渡しつゝ) 此書類を好い時分に予に渡してくれ。典獄は予の目的も計畫も心得てゐる。着手した以上は、よく命令を守つて、肝腎の目的を逸しないやうにしてくれ、臨機應變は無論必要だが。先づ、フレギヤスの宅へ寄つて、予の居どこを知らせておいてくれ。ヴレンシヤスやローランドやクラサスへも同様の通知をして、府門まで喇叭手を引連れて參るやうに命じてくれ。それよりも前に、フレギヤスを予のそこへよこしてくれ。
ピーター 早速取計ひませう。

ピーター 入る。

グーリヤス 出る。

公 グーリヤス、御苦勞だつた。大そう早かつた。さ、一しよに歩かう。今こゝへ他の者共も出迎へにやつて来るだらう。

二人ともに入る。

第六場 府門前の街上

イサベラとマリヤナと出る。

イサベ そんな事實でないことを言ふのは、わたしは厭なの。事實どほりに言ッちまひたいわ。けれども面と向つて責めるのは貴嬢の役なんだから、わたしには、是非さうしろ、とあの方がおつしやるの。本心を知らせないために。

マリヤ あの方のおつしやる通りになさいよ。

イサベ それからねえ、よしんば公爵さんが先方がたになつて、わたしに不利なことをおつしやらうとも、決して變に思ふには及ばない、それは甘い結果に導くための苦い藥に過ぎないからツて。

マリヤ わたしはね、あのピーターさんが……

イサベ (止めて) おゝ！ ちよいと。そのピーターさんが見えました。

ピーター 出る。

ピータ さアさ、あなたがたの爲に丁度いゝ居場處をばさがしておきましたぞ。

あそこにゐなさりさへすれば、公爵さんを素通りにさせることちやありません。喇叭が既う二度まで鳴つた。府の長老たちは、もうとうに府門へ出かけました。公爵さんの後入府に間もない。だから、さ、あつちへ、あつちへ！

と三人とも入る。

第五幕

第一場 ギエンナの府門前

喇叭や太鼓の音が盛んに聞える。

一方からは公爵とグリーンヤス、ついでに貴族、役人ら。他方、府門からは兵隊一群、ついでにアンジエロとエスカラス、次にルーシオ、典獄ら出る。背後の方には僧ビーター、イサベラ、及び覆面をしたマリヤナが控へてゐる。

アンジエロとエスカラスとは進んで公爵を出迎へて、膝まづき、めい／＼委任状を奉還する。と公爵はそれを受取りて、一役人に渡す。やがて、アンジエロとエスカラスとは起上る。

公爵 アンジエロ卿、さためめでたう逢ひました！……エスカラス、かはることがな

うて、めでたい。

アンジエロ 謹んでめでたき御歸國をお祝ひ申しあげます。

公 二人とも、千萬かたじけなうござる。(アンジエロに)不在中の事は、既に訊問に及んで、お前さんの政道が十分宜しきに合つてゐたと聞いて、満足の餘り、其報賞は追つての沙汰として、先づ取りあへず、予の感謝の意を公けに表したいと思つてゐる。

アンジエロ それでは、わたくしの責任がいよ／＼重大に相成ります。

公 おゝ！ お前さんの功勞は著明の事實である。當然、黄銅の文字に刻んで、「時」の齒も、「忘却」の鏝も及ばない處に安置してでも置くべきであるのに、それをば誰も知らない胸の牢獄内に藏つておくなんぞは、濟まんことだ。……手をお借しなさい。かうして臣民らに見せて、この外部に現はれる特待は、内部に特寵の存する徴證だといふことを知らせよう。……さ、

エスカラス。

アンジエロとエスカラスとの手を交るゝ取りて、二人を自分の左右に立たせ

(エスカラスに) お前は其方の方に接近して歩いてくれ。上等の杖なり、柱なりだ、お前がたは。

此時、ピーターとイサベラと前へ進む。

ピーター さア可し。お前へ出て、膝を突いて、大きな聲でお言ひなさい。

とイサベラを前へ押し出す。

イサベ (膝まづいて、公爵に) どうぞ御裁判下さいまし！ お、公爵さま、無法な目に逢ひました者にお慈悲をお加へ下さいまし！ わたくしの此正しいお訴訟をお聞き下さいませんか、他の事にお目をお向けなさいますのは、お恥辱でございませす！ 是非とも御裁判なすつて下さいまし、御裁判を、御裁

判を、御裁判を！

公 無法な目に逢つたとはどうしたのだ？ だれの爲に？ 早く言ひな。ここにアンジエロ卿があるから、すぐにも裁判はして遣る。事情を卿へ申し立てろ。

イサベ お、公爵さま！ それは、取りも直さず、悪魔に濟度を頼むやうなものでございませす。どうぞ御自身でお聴取遊ばして下さいまし。只今申します事を御信用下さいませねば、わたくしは罪人にならねばなりません。御信用下さいませすなら、是非ともお捌きを願ひます。どうぞお聞き下さいまし、どうぞ、どうぞ！

アンジ 御前、此女は、どうも正氣ではないやうでございませす。これは手前かたへ、兄の命乞に參つた女でございませす。其兄と申すは、正當な裁判の結果、斬罪に處しました者でございませす、しかるに……

イサベラは此時まで膝まづいてゐたが

イサベ まア、當な裁判! (といひつゝ、起上る)。

アンジ 此女は、しきりに無法なことのみに申し募つて、奇怪千萬な儀を口ばしりをりをります。

イサベ 成程、奇怪千萬なことばかり申し上げます、けれどもそれは、飽迄も眞實の事でございます。はい、お名代は虚言者です。奇怪千萬ちやありませんか? お名代は殺人者です。奇怪千萬ちやありませんか? お名代は姦通をなさります、盗賊です、偽善者です。處女を玩弄物になさります。奇怪な上にも奇怪ではございませんか?

公 いかさま、それは滅法に奇怪なことだ。

イサベ けれども奇怪なと同じ程に、それは眞實の事なのです。それは、此人がアンジエロさんであるよりも眞實なのです。何故ならば、眞實の事は、何千た

公 び算へ直したつても、眞實なのですから!

此女をそつちへ引立てろ! 可哀さうに、氣が違つてゐるのらしい。

役人らイサベラを捉へようとする。イサベラは手を離してそれを排ける。

イサベ お、お殿さま! 後生を思し召しますなら、わたくしのお願ひする事を氣ちがひだなんぞと宣言つて、お聽棄て下さいませ。さうらしくない事もさう有り得るものだと思し召しませ。此世に住んでゐる此上もない人非人が、たつた一人、如何にも聖人さうに、嚴格に、生眞面目に、それ、そのお名代さん宛然の顔付をしてゐることもあります。はい、現に、服装や表章や稱號や外形は如何あらうとも、それ、そのお名代さんが大悪黨でもあり得るのです。お殿さま、それは事實の事です。萬一此人が(とアンジエロへ思入して)それより以下なら、何でもない人間です、けれども、それよりも

以上ならば、まだ悪い名は幾らでも與れます。

公 どうも、此女は、狂人には相違ないが、それにしても、曾ぞ狂人からは聞きつけない妙に意味の聯絡つたことを言つてゐる。

イサベ おゝ、お慈悲ぶかい公爵さま！ そんな風にはかりお考へなすつちやいけません。理性をお裁判の爲にお使ひなすつて下さい。眞實らしく見せかけてゐる虚偽を引込ませて、隠れてゐる眞實を世に出して下さいませ。

公 狂人の多数はもつとすつと理性の無い筈の者だ。……お前の願ひといふのは何だ？

イサベ わたくしはクロロデイオと申す者の妹でございます。兄は姦通の罪でお名代から斬罪の宣告を受けました。わたくしは其折尼寺へ見習に參つてをりましたのですが、兄の許から、ルーシオといふ人が使ひになつて參りまして……！

此時ルーシオ帽子を脱ぎて、公爵の前へ進みて、

ルーシ 失禮でございますが、手前がルーシオでございます。手前がクロロデイオに頼まれました、此婦人に勧めましたんです、氣の毒な兄貴の命乞の爲に、アンジェロ卿の御許へ參つて、ともかくも願つて見たらよからうと申しまして。

イサベ はい、さう申されました。

公 (ルーシオに) 其方に、だれも饒舌れとは申しつけはしないぞ。

ルー へい、けれども黙つてゐるともおつしやりませんでした。

公 では、これからは黙つてろ。よく心得ておくが、さうしていよく自分の身の上の事となつた時分に、越度のないやうにと、神に祈るが、

ルー へい、そりや大丈夫でございます。

公 あんまり大丈夫ぢやあるまいぞ。氣を附けるが、

イサベ 大體は此方が今申されました通りでございます。

ルー その通り。

公 (ルーシオに) その通りかも知れないが、おれの命令けた通りではない。黙つてろと命令けたではないか？……

ルーシオ 辭儀をして退る。

(イサベラに) それから。

イサベ それで以てわたくしは、此人非人のお名代のところへ参りました。

公 こりや大ぶ狂人めいた言ひ方だ。

イサベ かう申しますのをおゆるし下さいまし、事實に相當した言ひかたなのですから。

公 言ひ直して。で、事實は……さ、それから。

イサベ 必要でないことを省いて、簡單に申しますと、……どうわたくしが頼み、ど

う祈り、どう願ひ、どうあの人が拒み、どうわたくしが答へましたかは、それは長いとなのですが、省きまして……はづかしい、悲しい結局だけを只今申します。あの人は、わたくしが言ふことを聴いて、わたくしの操をあの人の邪淫の慰み物にしない以上は、兄を救さないと申したのです。それで、いろいろ議論をしましてけれど、つまり兄が助けたさに、操を汚す心になつて、言ふ通りになりました。ところが、望を遂げると、翌朝早く令状を送つて、とうぐく兄を斬罪にしてしまつたのでございます。

公 (冷笑して) いかにも事實らしいことだ！

イサベ おゝ！ らしいどころぢやありません。事實でございます。

公 はてさて、馬鹿な奴だ！ 汝は夢中で物を言つてゐるのだ、でなくば、何かアンジエロに怨のある者に頼まれて、言ひがりを申すのに相違ない。第一、潔白なアンジエロに然ういふことのあらう筈がない。第二には、自分

も行つてゐる不品行を、然う峻烈に懲罰する筈もない。自身に然ういふ
覺えがあれば、おのづと身につまされて、殺すべき者をも助けさうなもの
である。何者かに教唆されたな。さ、白状しろ。だれに教へられて直
訴に及んだかを申せ。

イサベ
ぢやもう、これツきりぢや……お、神々さま……わたくしに忍耐力をお
與へ下さいませ！ 白ばつくれて隠れてゐる大罪惡めを、どうぞ、時節が
來ましたら、露顯させて下さいませ。(公爵に) 天の御保護を特別に御前の
爲に祈つておきます。申し上げることを取上げて戴かず、不法なお取扱
ひを受けて退るのですから。

公
と行きかける。
好い機會にして退るんだらう……役人！

一 役人前へ進む。

あの女を獄へ引立てろ！ おれの名代をも勤めるアンジエロに汚名を負は
せる者を赦しておくべきでない。これは奸計に相違ない。汝が此處へ
參つて直訴に及ぶことを豫め知つてゐた者が、誰れかあらうな？
イサベ
一人ございます、坊さんのロドギックさんです……あの方がこゝにゐてく
だすつたら！

公
老僧らしい。そのロドギックを存じてゐる者はないか？
ルー
御前、手前が存じてゐます。おせつかいな坊主でございます。手前はあ
の男を好きません。御不在中に、御前の事をさんぐゝわるくいつてたこ
とがございますから、あれが俗人であれア、うんととつちめてやるんでご
ざいましたツけが。

公
おれの事をわるくいつた！ ぢやア大ぶ善良な坊主らしいの！ あまつ
さへ、此あさましい女を教唆して、アンジエロを陥れようとしをつたとは！

其坊主をさがして来い。

ルー 御前、つい昨晚も、此女と其坊主に、監獄で逢ひましたんですが、あいつは全くいけない坊主です、下劣な奴です。

ピータ (前へ進みて) 憚りながら申しあげます！ 御前、手前は只今まで差控へをり

まして、あられもない儀を彼等がお聴に達しまするのを承つてをりました。先づ、其女がお名代へ宛をいひかけました。お名代は其女とは毛頭かゝりあひも、嫌疑もございませぬのです。

公 さうだらうと思つた。其方は此女の言つたロドギックと申す者を存じてをるか？

ピータ はい、存じてをりますが、誠實な高僧で、只今此方が申されたやうに、俗事に干渉三昧なぞいたす下劣な仁ではございませぬ。それから、決して御前さまの悪口なぞを、此方のいはれましたやうに、申すやうな仁ではござ

いませぬ。

ルー 御前、いゝえ、たしかにさんくゝな悪體を申しましたですよ。

ピータ さア、其邊はいづれ、當人が申し開きを致すでございませう。が、只今のところ、不思議な熱病に罹りをりますので、手前が頼まれました、アンジェ口卿に係るお直訴の實否と曲直とを、彼れに代つて、申し上げるため、參上いたしました。なれどもお呼び出しにさへなりませんれば、當人口づから、誓言の上、申し開きをいたすでございませう。先づ、此女を、此お方(とアンジェロへ)こなしありて)の濡衣を乾さしめ申すため、彼女が白状いたしますまで、此場に於て詰責しまして、お聴に達しませう。早速にはじめろ。……

公 此時、役人らイサベラを引立て、退り、やがて府門の内へ入る。(アンジェロに) アンジェロ卿笑ふに堪へたることではないか？ やれく！

みじめな奴らめが、思ひちがへにも程のあつたもの！…椅子を持って。

と侍者役府門内より椅子を二脚持ち出づる。

さ、アンジェロ卿、此訴訟には予は故と與るまい。お前さんが自分で自分の裁判をするがい。

此時、マリヤナ、覆面のまゝ進む。公爵とアンジェロとは椅子に掛ける。

(ピーターに) 清僧、これが證人か？ 先づ、覆面を取らせて、それから發言させろ。

マリヤ 御前、どうか夫が命じますまでは、顔を現しますのをおゆるし下さいませ。

公 え？ ではお前は結婚をしてゐるのか？

マリヤ いゝえ、まだでございます。

公 では處女なのか？

マリヤ いゝえ、處女ではございません。

公 では寡婦か？

マリヤ さうでもございません。

公 といふと、何でもないのでな。處女でも、寡婦でも、妻でもないのか？

ルー (公の椅子の背ろて) 御前、淫賣でござんせう。奴らは大抵、處女でも、寡婦でも、妻でもないんですから。

公 (役人を顧みて) あいつを黙らせろ。…彼奴には、自身の事で何か饒舌る種を有たせておきたい。

ルー はい、いかさま。

マリヤ 御前、わたくしは決して婚禮したことはございません、けれども、決して處女でもございません。夫に逢ひましたに相違ありません、けれども夫はわたくしに逢つたとは思つてをりません。

ルー ぢや、其時、奴さん、泥酔れてゐたんだね。きつとそんなこつた。

公 (ルーシオを睨んで) 黙つてゐる都合上、汝も泥酔れてゐればいゝのに！

ルー へい、いかさま。

公 此女はアンジエロ卿事件の證人にはならん。

マリヤ いゝえ、これから申しあげます。姦通罪の廉で此人を(とアンジエロへ思入し

て) 告訴いたしまする其女が、同じく姦通罪の廉で、わたくしの夫をも告訴

いたしますのです。何時の夜、何處で、如何いふ具合に夫と逢つたかとい

ふ事を、誓言して、告發いたします。

アンジ 彼女が告發する男が、わたしの外にもあるのか？

マリヤ いゝえ、外にはありません。

公 ありません？ 敵手はお前の夫だといふぢやないか？

マリヤ はい、夫でございます。さうしてそれはアンジエロのでございます。わ

たくしに逢つたとは思つてをられますまい、多分イサベラさんに逢つたと
思つてをられませう。

アンジ 奇怪な言ひが、りを申す奴だ。顔を見せろ。

マリヤ 夫の命ですから、顔を現します。……

マリヤナ 覆面を脱りて

残酷なアンジエロどの、此顔は、一度はあなたが、決して醜うはないとおつ
しやつて下すつた顔です。此手は、あなたが確乎と握つて、堅い約束をな
すつた手です。此肉體は、あなたのお庭の中の密室で、イサベラさんに成
代つて、あなたと出逢をした肉體なのです。

公 (アンジエロに) お前さんは此女に逢つたことがあるか？

ルー (公爵の椅子の背ろから) その逢つたていののは、無論、特別の意味ですよ。

公 (睨んで) 黙つてろ！

ルー へいへい、もう大丈夫。

アンジ 御前、なるほど、逢つたことはございます。五年以前に、此女との間に、一旦結婚の相談を進めましたのですが、其持参金の額が約束通りでございませなんだ上に、彼女の品行上にかやはいしい噂がございましたのが主な理由で、破談にいたしました。それ以来、五年間、此女と物を言つたことも、顔を合せたことも、便りを聞いたことも、誓つてございませぬ。

マリヤ (膝まづいて) お殿さまに申しあげます、光は天から來り、語は息から出で、又眞實には意義があり、美德には眞實があるものでございますなら、妾が此人の定まつた妻であるとは、誓文、相違ございませぬ。お殿さま、先の火曜日の晩、あの人は其庭内の密室で、わたくしと夫婦の契を交しました。これは全くの事實でございしますから、お咎めはないものと存じまして、起ちます。さうでなくば、石の像のやうに、かうして膝を突いてゐるのが當

然でございしますけれど!

マリヤナ 起ち上る。

アンジ (突立ち上つて) 只今までは一笑に附してをりましたが、御前、もはや打捨て、もおかれませんか、裁判いたしましたことを御許容下さいませ。これらの愚かな女どもは、更に優等の何者かに教唆されて、手先となつてゐるのに外ならんと存じます。御前、此奸計を探索いたしますことをお許し下さいませ。

公 お、無論差支ない。存分に懲すがよい。(と椅子を離れながらピーターとマリヤナを見返りて) おろかな坊主め!...不埒千萬な女、汝は最前の女と同類に相違ない。たとひ汝の誓言が、あらゆる聖者たちをさへも毀けるに足ればとて、到底此徳行の君子人を陥れることは出来んぞ!...エスカラス卿、お前さんはアンジエロ卿と同席して、共に力を合せて、此讒誣の出所を糺

問して下さい。彼等を教唆した今一人の僧があるといふ。其者をも拘引させるが可い。

ピータ あの仁がこゝにをりますればなア！ 全くあの仁が女たちに勸めて、此お訴訟をさせましたのですから。典獄どのはあの仁の居どこを存じてをられます、つれて來らるゝことが出來ませう。

公 (典獄に) すぐつれて來い。……

典獄會釋して入る。

ところで(とアンジエロに對つて) 君子、賢人と誰れしも認めてゐるお前さんの身に關してゐるのだから、十分に名譽の損傷を償ふに足るやうな懲罰を下しなざるが可い。予は暫時此場を退くことにする。但し(とエスカラスらに) お前さん達は、此讒誣者どもをとくと裁決に及ぶまでは、此場を離れてはなりませんぞ。

エスカ 御前、きつと取捌きますでございませう。

公爵侍者らを従へて入る。

(ルーシオに) ルーシオさん、たしか、お前さんは、あのロドギックは不正直者だとかお言ひなすつたね？

ルー 「僧衣を被る者必ずしも清僧にはあらず」です。只上被ばかりが殊勝なのです。奴ア公爵さんの品行をさんざつばら悪く言つてましたよ。

エスカ どうかあの僧が來るまでこゝにゐて、對決して下さい。札附の一人かも知れない。

ルー 無論です、ギエンナ中のどの札附にも負けやしません。

侍者役、府門の内へ入る。

エスカ (侍者に) あのイサベラとやらをもう一度呼んで來い。訊ねたいことがある。(アンジエロに) 閣下、どうか札問方を手前にお任せ下されたい。どう取扱ひ

ますかを御覽下さい。

ルー どちらが優だか、まア似たりよつたりだらう、あの女の言ふ所によると。

エスカ (聞替めて) え、何が?

ルー なアにね、内證でそつとお扱ひになれア、すぐにも白状しませうけれどね、

公然ぢや恥かしがりまさアね。

エスカ そこは故と曖昧にやる積りだ。

ルー そこです、曖昧は女どものお手の物です。

役人ら イサベラを伴れて又出る。

エスカ (イサベラに) すつと進みなさい。…此婦人が(とマリヤナへ思入して) お前さんの先刻申立てたことを悉く否認してゐるぞ。

此時 ルーシオは一方を見やりて。

ルー (エスカカラスに) 閣下、あれへ手前が噂してをりました悪黨僧が來ました。

典獄と一しよに。

エスカ ちようどよい。此方から命するまでは、口を出してはなりませんぞ。

ルー むがくく。

と啞子の眞似をして退る。

僧服で假裝してゐる公爵と共に典獄又出る。

エスカ (公爵に) 進みなさい。其方が、此等の女たちを教唆して、アンジェロ卿の讒訴をさせたと、彼等が既に白状に及んだが、さやうか?

公 それは虚偽です。

エスカ なに! こゝを何處だと心得てをる?

公 お役柄を尊敬いたしをりまする! 地獄の裁判庭では、悪魔も判事の役を勤めることがあります。公爵は何處にお在です? 手前は是非とも公爵さんに申し上げたいと存じます。

エスカ 公爵の命は吾々が承つてをる。われ〜に申せばよい。きつと眞直に申せ。

公 少くとも無遠慮に申します。……(女連を見返りて)しかし、あゝ、氣の毒な人達だ！ お前さんがたは狐の處へ子羊を尋ねて來たのだ。救つて貰ふ望はないよ！ 公爵さんはおなさらない？ ぢやお前さんがたのお訴認もおさらばだ。公爵さんも不公平なお人だ、かういふ川白な訴訟を放り出して、其審問を、人もあらうに、告發された其當人の惡漢にお任せなさるとは！

ルー 手前が申してゐた惡黨は此奴なんです。

エスカ はてさて、見下げ果てた、卑劣な賣僧め！ 此等の女共を煽動して、此君子人を讒訴せしめたさへあるに、其當人の面前をも憚らずして、惡漢よばゝりをいたすのみならず、更に舌鋒を轉じて、公爵御自身をも不公平だなん

ぞと罵るとは、不埒千萬だ！……(役人らに)こいつを引立てろ。拷問臺に掛けろ！

役人ら進む。

手足の節々を引裂かせて、白状させてくれる。不公平とは何だ！

公 さうお逆上せなさるな。わたしの此指を只の一本でも挫きなさりや、それは取りも直さず、公爵さん自身の指を挫くことになりますぞ。わたしは公爵さんの家來でも、御配下でもない。ほんの偶然に、参り合せて、風紀がおそろしく紊亂して、目に餘るやうになつてゐるのを目撃したに過ぎない。法律は十分に備はつてゐる、けれども不埒な所行が平氣で黙過されてゐるから、峻嚴な法律も、理髮店の過料定め同様、注意の目的たるものが寧ろ嘲弄の目的になつてしまつてゐます。

エスカ 當政府を惡口しをる！……こやつを監獄へ引立てろ！

二人の後人、引立てようとして公爵の傍へ進む。

アンジ (ルーシオに對つて) ルーシオどん、お前さんが、何か告發することがあると言つたのは、此者か?

ルー はい、あれです。……(公爵に對つて) おい、禿爺さん。君は我輩を見覚えてゐるかね?

公 お聲で覚えてをります。監獄でお目にかゝりました、公爵のお不在中に。

ルー おゝ! さうでしたかい? さうして君は、其時、君が公爵に關して言つたことを覚えてゐますかい?

公 たしかに覚えてゐます。

ルー ですかい? で、其時君が言つた通り、公爵は、實際、色好みで、馬鹿で、さうして臆病者ですかい?

公 貴下は、……ねえ、もし、……わたしと身體を交換してからでなくッては、

そんな事をわたしと言つたとは言へない筈ですよ。貴下こそ然ういふことを言つたのです。いや、もつとすつと酷いとおつしやつたのです。

ルー おやッ、此野郎! おれがあの時、汝の鼻を捻つたぢやないか、あんまり酷いことをいやアがつたから?

公 (平然として) わたしは、公爵さんを、自分も同様に、大切に思つてゐます。

アンジ (エスカラスに) どうです! 悪黨めが、さんく悪口を申してゐたといふにも拘らず、あゝいふことをいひをる。

エスカ あんな者と問答は無益です……すぐに獄へつれて行け! 典獄は何處にゐる?(典獄進む) 牢へつれて行け! しつかり手械を掛けて、もう物を言はせるな! その淫婦ども、逐立てろ。其同類も逐立てろ!

役人ら イサベラとマリヤナとを捉へんとして進む。典獄は公爵に手を掛ける。

公 (典獄に) お待ちなさい。ま、お待ちなさい。

アンジ やッ！ 手向ひしをるな？ それ、ルーシオ、手傳ひなさい。

ルーシオ 公爵の傍へ進みて

ルー これさ。これさ。これさ。恥知らずが！ 禿ちよる頭の虚言者坊主め

が！ いつまでそんな頭巾をかぶつてゐなけりやならんのだ？ 悪黨づ

らを見せろ、罰當りが！ 狼づらを露け出して、すぐ絞り首にされッちま

へ！ 脱がん？

と無理に僧帽を引奪ると、公爵の常の顔が現れる。アンジエロ

驚いて椅子を離れる。ルーシオも駭いて退る。

公 (ルーシオに) 叙爵を行つた悪黨は汝が破天荒だ。…(典獄に) 典獄、わしは先

づ、此温良な三人の者を放免しませう。

とイサベラらへこなし。役人ら進みてイサベラ、マリヤナらを放

免する。此間にルー

シオはそつと逃げに

かゝる。

(ルーシオに) おい、逃げちやいか

ん。是非ともあの托鉢僧と一

問答させんけりやならんから。

…(役人らに) あの者を取りお

さへろ。

役人らルーシオを引展

す。

ルー (しよげて) わるくすると、絞罪以

上の目に逢ふかも知れない。



公 (エスカラスに) お前が言つたことは咎めないぞ。席に着きなさい。予は彼
れのを借りよう。(アンジエロに) 御免なさいよ。

アンジエロの椅子を引寄せて腰を掛ける。エスカラスも着席す
る。

(アンジエロに) かうなつても、尙言ひ開く語か、智慧か、もしくは面皮がある
か? 若し有るならば、只今申し聞かすことがあるから、それが終るまで、
どうにかして、引堪へてゐろ。

アンジ (恐縮して膝まづいて) お、御前、恐れ入りました。ごさいます! 御前御自身が
恰も神明の如く、一切の行動を御照覽あつた。承りながら、尙包みおほさ
れると存じますやうならば、罪科の上に更に罪科を重ねまする道理でござ
います。此上は、御前、どうか此自分を以て手前が破廉恥罪の御審問にお
易へ下さい。此上は、すぐさま御宣告を下され、死刑に處せられますのを、

公 無上のお慈悲として、お願い申します。

公 マリヤナ、こゝへ来い。

マリヤナ進む。

アンジ (アンジエロに) おい、其方は、此女と夫婦の契約をしたことがあるか?
はい、ございました。

公 彼女をつれて行つて、すぐさま結婚しろ。

アンジエロ會釋してマリヤナの傍らへ進む。

(ピーターに) 清僧、其方は役目を勤める。役目が済んだらアンジエロをこゝ
へ歸らせろ。……典獄、僧と一しよに行け。

アンジエロ、マリヤナ、ピーター、典獄、おのゝく公爵に會釋して後、府門
内へ入る。

エスカ 御前、手前は此事件の奇恠なのに驚きますよりも、彼仁の行爲の不名譽な

のに驚き入りましてございませす。

公 イサベラ、こゝへ來なさい。お前の和尚が今ではお前の領主だ。お前の爲に指導をしたり、心を盡したりしてゐた子は、服装は變つても、心は變らないで、お前の爲に盡力してやるぞ。

イサベ おゝまあ！ お免し下さいませ。お殿さまとは存じませんで、御家來のわたくしが、お使ひたて致しまして、お骨折を掛けました。

公 イサベラ、お前には咎はない。決して斟酌には及ばん。嗚、兄をなくしたのを悲しんでゐるであらう。又、彼れの命を救はうと盡力しながら、予が何故早く公爵たる身分を明して、公然權力を振ふことをしないで、彼れを見殺しにしたかを不審に思ふでもあらう。おゝ、感心な、兄思ひの處女！ 實は、彼れの死刑は、あゝ急に執行されようとは豫期してゐなかつたので、予の見込が破れたのであつた。が、後世安樂々々々々！ 死の恐怖を超

脱した後の世は、恐怖に満ちた現生活よりも優つてゐる。さう思つて心を慰めるがいゝ。それが兄貴の幸福である。

イサベ はい、かしこまりました。

アンジエロ、マリヤナ、ピーター及び典獄又出る。

公 (イサベラに新たに結婚して、今こゝへ來るあの男は、一度は邪淫な妄念を起して、お前の操をきずつけようとしたのではあつたが、其舊惡はマリヤナの爲を思つて、赦してやつて貰はねばならん。けれども、彼れはまた、お前の兄を宣告したのだから、……處女の操を破らしめたといふことと共にそれと聯關した約束をも破つたといふ此二重の犯罪の故に……お前の兄を殺した下手人と認めなければならんので、慈悲を本意とする國法も、公然最も聲高に「クローディオを償ふにアンジエロを以てせよ、死を償ふに死を以てせよ！」と叫んでゐる。急ぎに報ゆるには急ぎを以てし、緩きに應ず

るには緩きを以てし、類には類を以てし、尺には尺を以てする、それが古今の常法である。

この以前にアンジエロからおの／＼よろしく住ふ。

(アンジエロに) 其方の罪過は、既にかくの如く明白である以上、今更覺えがな
いといつても、効はないぞ。クロードイオを死刑に處した其同じ斷頭臺へ
其方を、彼れ同様、寸刻の猶豫をも許さず、宣告する。……それ、引立てろ!

役人ら アンジエロの傍らへ進む。マリヤナ急に進みて、

マリヤ お、お慈悲深いお殿さま! よもや夫を興へるとおつしやつておいて、

わたくしをお嘲弄り遊ばすのおやあるまいと存じますのに!

公 お前の夫こそ夫を興へると言つてお前を弄んだ。わしはお前の名譽を保
護してやると約束した順序上、結婚させるのを當然と考へたのだ。さう
しないと、彼れに逢つたといふ事實のために、お前の身が疵物になつて、將

來の故障になるからだ。彼れの財産は、本來は國家へ沒收すべきだが、も
つと良い夫を儲けさすために、寡婦たる其方に與へて相續させる。

マリヤ お、お殿さま! 他の夫は欲しくありません。此人で澤山でございま
す。

公 さういわけふには不可ん。もう定つたのだ。

マリヤ (公爵の前に膝まづきて) お慈悲でございます! ……

公 いや、いくら言つても無益だ。……(役人らに) 死刑場へ引立てろ!

役人ら アンジエロを引立てようとする。

(ルーシオに) ところで、其方に言ふことがある。……

マリヤ (尙膝まづいたまゝで) お、お殿さま! (といひつゝイサベラを見返つて) イサベラさ
ん、身方になつて下さい。一しよに願つて下さい、さうすれば、わたし死
ぬまでもあなたの爲に命を捨て、盡しますから!

公 それは無理無體な頼みといふものだ。若し彼女が斯ういふ罪惡に同情して歎願するやうなら、彼女の兄の亡靈が墓を發いて出て来て、怨み怒つて、彼女を地獄へ引立て、行くであらう。

マリヤ イサベラさん、もし、イサベラさん、でも只、わたしの傍に膝を突いて、何にも言はなくつてもいいから、手を舉げてゐて下さい、願ふことはわたしと言ひます。……どんな善い人にも過失はあると申します、のみならず、大抵は少しづつ、悪いことがあればこそ、後にすつとく善良になるのだと申します。わたくしの夫とてもさうでございませう。……お、イサベラさん！膝を貸しちや下さらないの！

公 アンジェロは、クロードイオを殺した罪で死ぬんだ。
 イサベ (膝まづいて) お慈悲深い御領主さま、どうぞ此罪人の方を假にまだ兄は生きてゐるのだとおぼしめして下さいませ。此方のなすつた事は、わたくし

がお目にかゝつたまでは、お職務に十分お忠實であつたらうと存じますから、死刑だけはお赦し下さいませ。兄は、死罪を犯しましたのですから、あゝなつたのは正當でございませう。アンジェロさんは、よくないお意はあつたつても、實行はなさらなかつたんですから、それは中途で死んだ意志として葬つてしまふのが當然でございませう。考へたばかりなら事實ではなく、企てたばかりなら、ほんの考へたばかりですから。
 マリヤ はい、ほんの只考へたばかりです。
 公 幾ら願つても無用だ。立て……。……

二人餘儀なく立ち上る。

典 他にまだ不埒な事のあるのを思ひ出した。……典獄、クロードイオを前例の無い時刻に斬首したのはどういふわけだ？
 さういふ御命令でございましたゆゑ。

公 さうしろといふ特別の令状でも受取つたのか？

典 いえ、さうではございません。御内命なのでございました。

公 其廉で只今其方を免職する。鍵を引渡せ。

典 どうぞ御勘辨下さいませ。手前は、わるいとは考へましたのですが、つい

その、心附きませんでした。けれども、よく考へて見て、後悔いたしました

た。その證據には、同時に死刑に處するやう御内命のありました一囚人を

尙生かしておきました。

公 それは何といふ者だ？

典 パーナーティンと申す者でございます。

公 クローディオをも生かしておけばいゝのに。其奴をこゝへ伴れて来て、お

れに見せろ。

典 典獄入る。公はイサベラを一隅へ伴ひ行きて何事をか語る。

エスカ

(アンジエロに) アンジエロ卿、あなたのやうな、學者とも賢人とも信ぜられてゐた御仁が、血の熱した餘りに、又後には、分別の中正を誤られた爲に、かやうな甚だしい心得ちがひをなされたのを、お氣の毒に存じます。

アンジ

自分はいふふあさましい後悔を醸したのを悲みます。其後悔が慚愧の此胸を貫くので、手前は慈悲よりも、ひとへに死を願ひます。死ぬが當然です、死刑を懇願いたします。

府門内より典獄先に立ちてパーナーティン覆面してゐるクローディオ及びシュリエットを伴れて出る。

公 (典獄に) どれがパーナーティンだ？

典 (パーナーティンを前へ出して) 此奴でございます。

公 (パーナーティンに) 汝は剛情な奴で、現世の外は更に念頭に置かんで、勝手氣儘に日を送つてゐるとか聞いた。汝は死罪と定つてゐるのだ。しかし現世

の罪過だけは悉く赦してやるによつて、此慈悲に鑑みて未來の安樂を願ふ準備をしる。……(ピーターに)清僧は教誨を與へてやれ。其方に彼れを任せろぞ。……

ピーターはバーナーディンを伴れて入る。

其覆面してゐるのは何者だ？

典
これも手前が助けおきました他囚人でございます。これもクロードイオが斬られましたと同時に殺される筈でございましたのです。クロードイオに大變よく似てをります。

クロードイオの覆面を脱りかける。

公
(イサベラに)お前の兄に似てゐるやうなら、兄の冥福のために、赦すことにしよう。

クロードイオ顔をあらはす。イサベラ見て駭き、駆け寄つて抱きつ

き、やがて公爵の前に膝まづく。

ルー
お前さんを愛するの餘りだ。さ、手をお貸し、(とイサベラを抱き起しつゝ)さうしてわしの有にならうとお言ひ。(と言ひつゝ、更にクロードイオの手をも取りて)すれば子の爲にも兄弟である。が、此事は、いづれ適當な際に。……これで、アンジェロにも、其身の安全なのが解つたらう。既に其眼に復活の色が見えてゐるやうだ。……なア、アンジェロ、これでお前の罪が消えた。よく妻を可愛がつてやんなさい。立派な、似あひの妻女だ。子は十分にお前の罪を赦してやるぞ。……が、この席に、一人、赦しがたい者がゐる。……(ルーシオに)やい、汝は、おれを阿呆、臆病者、色好み、馬鹿者、きちがひ、なぞと申したつげが、どういふわけで、あゝいふ悪名をおれに負はせたのだ？
事實、その、只その、口癖で申しましたのです。そのお咎めで、絞首においひわたしになるのかも知れませんが、成るべくなら、答ぐらゐで御勘辨

を願ひたうございます。

公 まづ笞をくれておいて、其後で絞り首にする。…典獄、市中へ布令を出して、もし此放蕩者の爲に不法な扱ひを受けてゐる女があるなら…ある女に子を生ませたと自分で斷言したのを聞いてゐるから…其女に出頭させて、さうして此奴と結婚させろ。式が濟んだらば、笞を加へて絞罪にしろ。

ルー

お願いでございます、淫賣と夫婦になるのはお免しを願ひたうございます。御前さま、つい先刻、あなたをわたくしが叙爵したとおつしやいました。御前、どうか其御褒美に、淫賣の亭主になることだけはお赦し下さいませ。

公

いや、是非とも其女と結婚しろ。おれを讒誣したのは赦してやる。また、其他の懲罰をも免することにする。…(典獄に)獄へ伴れていつて、命令

通りに行へ。

役人らルーシオを取りおさへる。

ルー

淫賣と夫婦になるのは、御前、石責です、笞です、絞罪です！
領主を讒誣した報いとしては相當だ。

公

役人らルーシオを引立て、入る。

クロードイオ、お前が名譽を毀損したあの女の爲に善後策を講じてやれ。…マリヤナ、うれしいだらうな！ アンジエロ、随分可愛がつてやれ。わしは彼女の懺悔を聽いてやつたので、彼女の淑徳を知つてゐる。…御苦勞だつた、エスカラス、よく忠實に勤めてくれた。まだ他に喜んで貰ふべきこともあるが、それは後廻しにする。…御苦勞であつた、典獄。よく謹んで秘密を守つて勤めてくれた。汝はもつと重い職に登用しよう。アンジエロ、ラゴザインの首をクロードイオのだといつてお前のとこへ持

つて行つた罪は赦してやれ。罪とはならん罪だ。イサベラ、(と手を取つてキツスをして)こゝに一つの相談がある。それはお前の爲になることだ。それをお前が聽いてくれれば、わしの有はお前の有となり、お前の有はわしの有となるのだ。……ちや、館の方へ出掛けることにしよう。館で、お前がた一同に、言ひ残した知らせをおかんけりやならん一切の事を打明けませう。

皆々入る。

* * * * *

附 録

第一幕、第二場

*1 「七五なり、八六なり、云々」。

此段は主として當時の武士の無宗教でもあり、不品行でもあつたのを諷刺してゐる。食事時に口にする謝恩辭は、大抵、韻律を整へた語句で綴られてゐるのを例とする。又羅旬語なぞのを其儘に誦するこゝともあるから「七五調なり、八六調なり、云々」といつて嘲つたのである。

*2 「三度毫りの特製天鷲絨云々」。

秃頭を嘲る言葉。頭の早く禿げるのは、當時は、主として花柳病の結果だと見做したのである。

*3 「僕は爾來祝盃、云々」。

「足下は、只今の口吻によつて察するに、花柳病に罹つてゐるに相違ないから、以後は、祝盃の飲み廻しも、君の飲んだ後では眞平だ」といふ意味。(爾來は寧ろ以來とすべし。)

* 4. 「君が感染してるか、してゐないか、云々」。

やはり花柳病に因んでの文句である。以上の如き問答を頓智問答といつて、當時若い連中の間に流行つたものである。とにかく問答は、君の方が負けだ」の意。沙翁の喜劇の言語上のなかしみは多く此警句問答から成立つてゐる。

* 5. 「其お療治専門のお内儀、云々」。

外國の賣色は、大昔から密賣式である。エリザベス時代のそれは、最初はすべて酒場式であつたが、後には風呂屋兼業のが出来た。それらは一才元祿式だともいへる。勿論、花柳病專賣所なのだが、自衛の必要上、其療治法をも心得てゐたのである。

* 6. 「佛蘭西式の金貨あたま」。

語原はちがふが、我國でも、禿頭のことをキンカアタマ（金柑頭）と言ふ。こゝでは花柳病の結果としての禿頭を指す。「三千ドラー（弗）以上」といつたのに對して「では、更にその三千ドラーに附け加へて、佛蘭西金貨一箇とでもいふのか？」と洒落れたのである。佛國は、其頃から淫靡を以て鳴つてゐたので、同國人には禿頭が多かつた。禿頭の光るのを金貨に引掛けたのである。クラワンには「頭」といふ意味もあるから尙妙である。

* 7. 「お尻のどつち側が云々」。

「穢き過ぎ屋」、或は譯して「爛熟軒」などと支那風に物するのも面白いかも知れん。餘り營業に勉強し過ぎた結果、よくない病氣が膏肓に入つて、坐臥行歩不如意といふ體。或は、此女の役は、例のフォーリスタツフやジュリエットの乳母などを演じた當時の肥滿漢の道化形が扮したのかも知れぬ。坐骨神経痛、云々は、其歩きふりを評したのである。

* 8. 「差込雙陸、云々」。

栓のやうな形をした棋子ゴキマを、或方式によつて、競つて盤面の穴へ差込んで、勝負を決する一種の遊戯で我國の雙陸の類であるらしい。今は傳はつてゐない。こゝでは「穴ツばひり」といふ位の意味の比喩と見てよい。くはしくいふと、更に一層卑猥な聯想を呼ぶ行爲を暗示してゐるのである。

第二幕、第一場

* 9. 「取るに足らん公爵の警保官云々」。

警保官は今の警部ぐらゐの役。當時の警察官は明治初年のそれらよりも遙かに以下の、全く無學な、無能なのが多かつた。けれども文藝復興當時の事として、種々の新語が俗間にすらも使用されたので、

無學者は、しばしば其使用を誤り、もしくは其解釋を間違へて、役人たるの威儀を損じる例が多かつた。作者はそこに滑稽の料を發見して、頗る「判然」を「惘然」とを取り違へて使ふなかしみを並べてゐる。恰も明治初年の漢語の間ちがひといふ格である。これらの言語上の滑稽は、これを作者の馭洒落と見るよりも、むしろ一種の寫實的滑稽と見るべきである。

「取るに足らん」*poor* は警保官の形容詞の積りて言つてゐるのだが、言葉の連絡上、公爵の形容詞と聞えるところがなかしみである。

* 10 「煮梅」。

原文は *Stewed Prunes* とある。*Prunes* は乾梅實であるが、*stewed* とあるから、それを煮たものと思はれる。私娼らの最も好んで食したものとばかりで、くほしい効用は分らないが、何でもわるい病氣の毒消しになるのであるらしい。エルボーの妻がそれを買ひに来たのも、何か薬用上の目的があつてらしい。

* 11 「ハニバルめ」。

カニバル(喰人々種)と古英雄のハニバルとを、音が似てゐるので混同したのである。「毆打創傷」の意味も「現狀維持」の意味も解してゐない程の無學者でありながら、一知半解の外來語を濫發する所がなかしみでもあり、當時の寫實でもある。「現狀維持」しておかうといふエスカラスの語を誤解して「懲

役三年に處する」ぐらゐに思つて喜んでゐる。

第二幕、第二場

* 12 「紅と白の『父なし子』云々」。

西班牙から輸入してゐた甘味の酒の名。淫賣屋で使用する酒相當の名である所がなかしみである。紅白の二種があつた。強壯劑(腎藥)たるの效用もあるといふので、淫賣屋の常用になつてゐた。

* 13 「二種の高利商賣、云々」。

「愉快な方」とは淫賣屋のことであり、「面白くない方」とは普通の金貸業の事である。前者は、風和上有害といふ廉で、ロンドン市外へ驅逐されることになつたのだが、後者は依然として公許されてゐて、ますます暴利を貪り、奢侈に耽つた。

* 14 「例のビグメリオン、云々」。

ビグメリオンは西洋の左り甚五郎である。自分が製作した彫像に戀慕したところ、それに魂が入つて活きた美人となつて契りを結んだといふ昔話がある。一五九八年頃出版のマーストンの作の小叙事詩に此話を主題にしたものがあるさうだが、それは大ぶ猥雑なものらしい。ルーシオの此一句は特にそ

れに因んでゐるらしい。こゝでは、金銭さへあれば自由自在におもちゃ玩弄にすることの出来る淫賣屋の新し
い抱へ女のことを指したのである。

*15 「食べあまされさんは、云々」
稼ぎ過ぎ屋の女主を指す。

*16 「今ちやア自身が桶ツ入り」云々

「豚の鹽漬け」といふこと、「鹽湯療治」といふこと、双方へ引掛けた言葉。桶風呂で鹽蒸し療治を行
ひ、みつしりと汗を絞り取る一種の療治法。女主彼れ自身、あまり稼ぎ過ぎて、其療治法を實行最中
といふ意。

*17 「ボンペイ、早く小屋へ行け」云々。

「小屋」とは犬小屋の意。ボンペイといふ名は犬の名に多い例である。犬を蹴込む氣で斯ういつたの
である。

第四幕、第二場

*18 「女の頭、云々」。

「亭主は女房の頭」といふ俗言がある。こゝは自分の頭を斬るのは眞平だといふ駄洒落である。もつと
も、女の罪人は多く魔術に關係した者であつて、さういふ罪人は焚殺が恒例となつてゐたから、それで
斬罪には出来ないと言つたのもある。

*19 「どの良民の被服だつて、云々」。

アブホオソンとボンペイとの問答は、所謂團子理窟のなかしみである。腦のわるい同志の間の問答に
は往々にして斯ういふ不得要領の議論が行はれる。當時は、死刑囚の被服は、すべて首斬役の所得とな
る規則であつた。で、どの良民、云々といふのは、賊が常に手當り次第に良民の衣類を盗んで、どうにか
しておのが用に供することを指し、「良民はそれをちよつと云々」は、其賊の遺物を首斬役——良民——
が更にまた何とかして自分の爲に利用するの途を講ずることを指したのであるらしい。訥辯で、下手
々々と理の通らぬ理窟をこねるところが一種の寫生的滑稽である。

*20 「時々詫言をいふだけでも、云々」。

首斬役が死刑囚に向つて、いざといふ際に「これは役目であることだから恕してくれ」と斬る習慣があ
つたのを指す。

同幕、第三場

* 21 「鳶色紙と古生姜、云々」。

ここに列擧した人物は、概して博奕上の詐欺又は負債の爲などで獄に下つた者である。當時、若い放蕩者などが賭博に負けて無一物となつた際に、之に資金を貸すに當り、名義は何百圓と稱しながら、其實は正金は僅か數十圓又は數圓に止めておき、他は代物で濟し、而も後に至りては、金額の償却を強迫するといふわるい手段が流行つた。暗雲屋と名稱する位の向う見ずの無頼漢だから、屢々さういふ惡法を行つたものと見える。額面三百圓の用立金の中、正金はたつた三圓で、餘は悉く鳶色の紙片と古生姜とで間に合はせたのであらう。すなはち只數取りにそれらの品を使つたのである。あんまり生姜の需要が云々」とあるは、生姜菓子昔風の老女連の嗜好品であつたのをいふ。老女連が揃つて生きてゐれば、生姜もさうふんだんには濫用しにくいのだが、恰も時代がはりであつたので、惡法屋がそれを流用したといふ洒落である。

「桃色繻子、云々」はとかく仕立屋を借り倒す紳士連の多かつたことに對する諷刺。

* 22 「腐れ枸杞、云々」。

「女はメドラー」といふ諺がある。これは Meiler (おせひ) といふこと、Medlar (枸杞) といふこと、双方へ引掛けた言葉で、後者は忽ち熟し、忽ち腐るの意、即ち「養ひがたし」といふ隱語である。

第五幕、第一場

* 23 「理髮店の過料定め、云々」。

昔の理髮店は下科醫兼業であつたから、店頭には種々の器械や道具が並べてあつた。それを自分の順番を待つてゐる客が退屈の餘り、とかくおもちゃにして毀損してならぬので、「おこはしになると過料若干を申し受け候」といふ意味の張出しをしておいたのが、客に根つから注意されなくて、馬鹿にされる例が多かつたのを指す。といふのが普通の解釋である。が、一説には、齒科醫をも兼ねるといふ目じるしに、客から沒收した齒齒などを一束れ店頭に掲げて、「早く療治をなさらんと、これ此通りですぞ」とからかひ半分の看板を出してゐたのを指すともいふ。後者とすると、本文は「理髮店の沒收品同様、注意の目じるしたると共に嘲弄の目的に云々」と改譯さるべきである。

大大大大
正正正正
九八七七
年年年年
四八九九
月月月月
二十十五
五八五日
日日日日
三再發印
版版版
發發發
行行行

(製複許不)

附與尺部尺以
錢拾五圓紙金價正

譯者 東京市牛込區余丁町百十四番地 坪内雄藏
發行者 東京市小石川區音羽町四丁目十一番地 荒川信賢
印刷者 東京市牛込區櫻町七番地 渡邊八太郎

發行所

東京市牛込區
早稻田

早稻田大學出版部
(振替口座東京一三三三番)

←[刷印社會式株印清日]→



賣 捌 所

東京神田
東京神田
東京日本橋
東京京橋
東京京橋
大阪東區
名古屋市

富山房
東京堂
至誠堂
北隆館
東海堂
盛文館
星野文星堂

(其 他 各 地 書 肆)

終